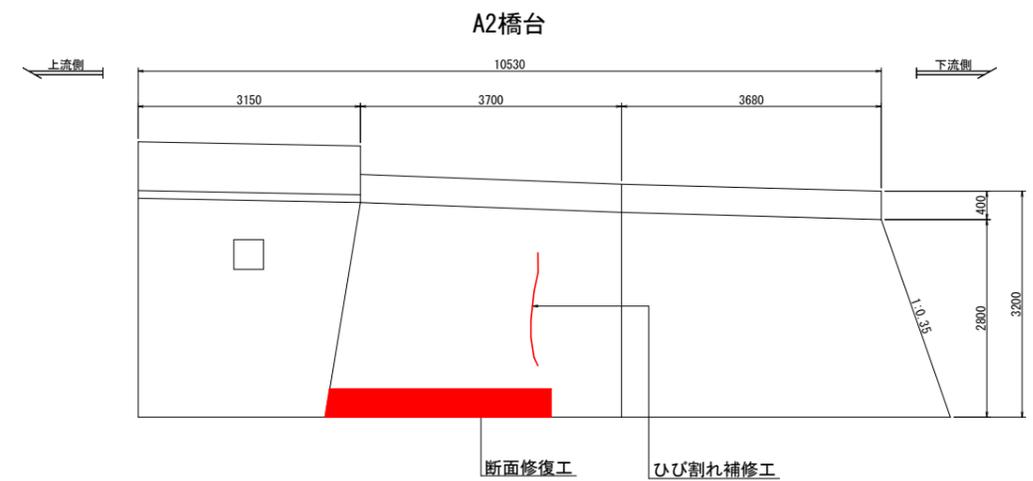
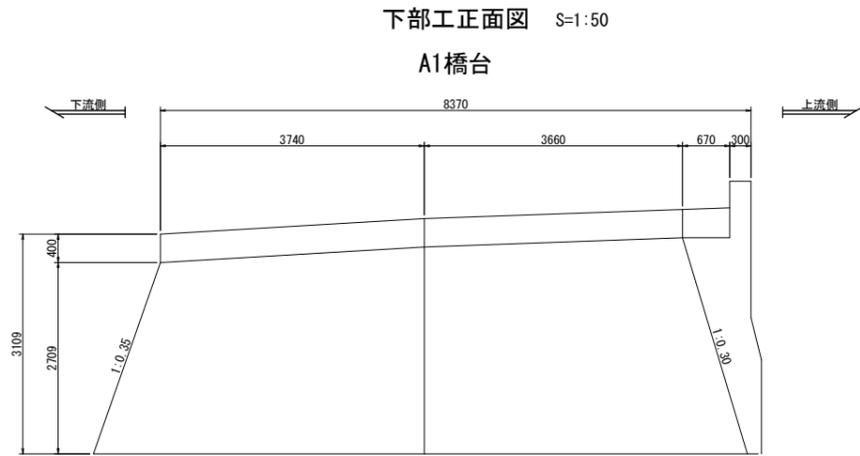
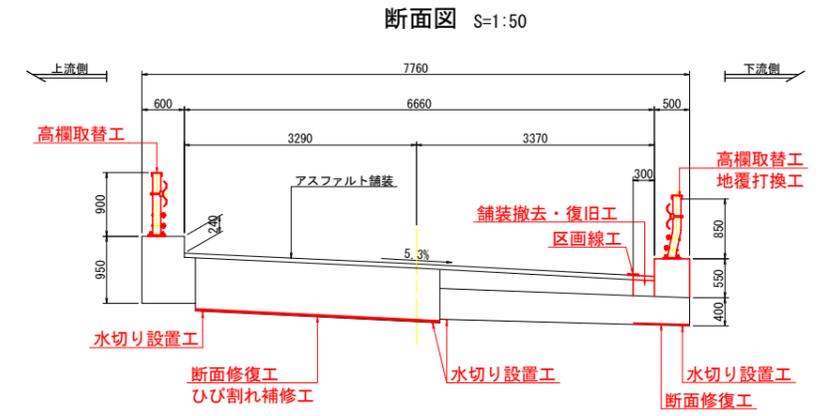
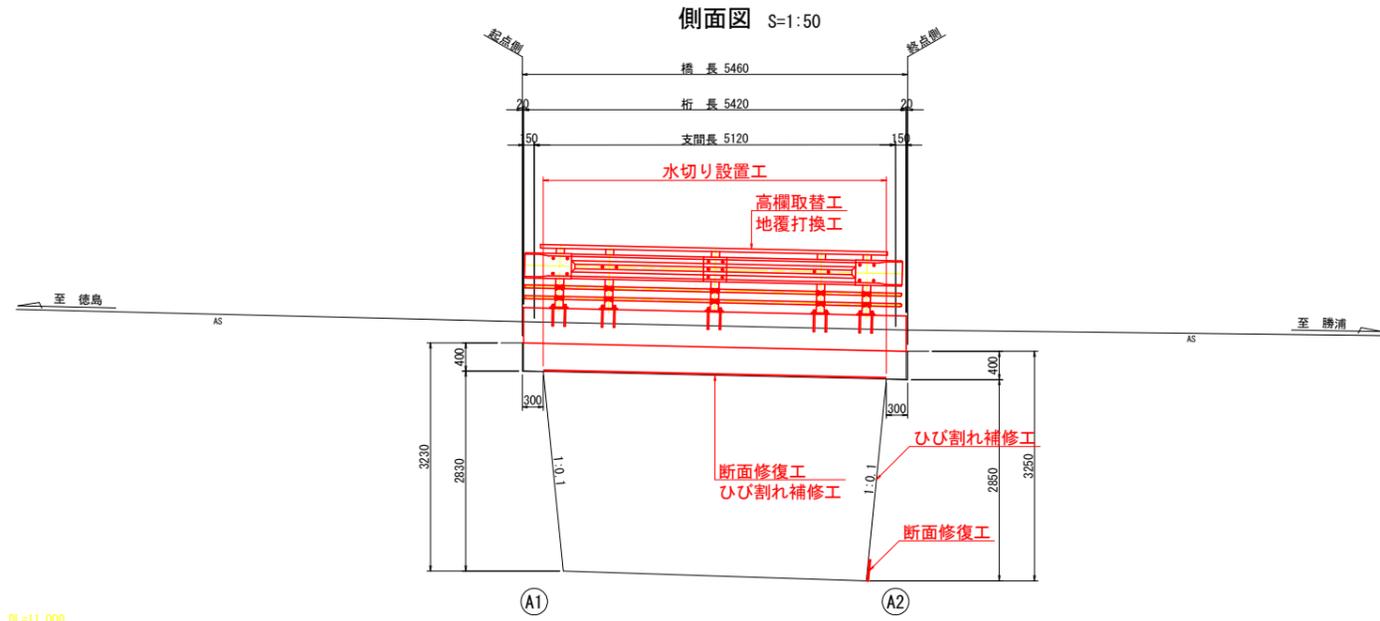
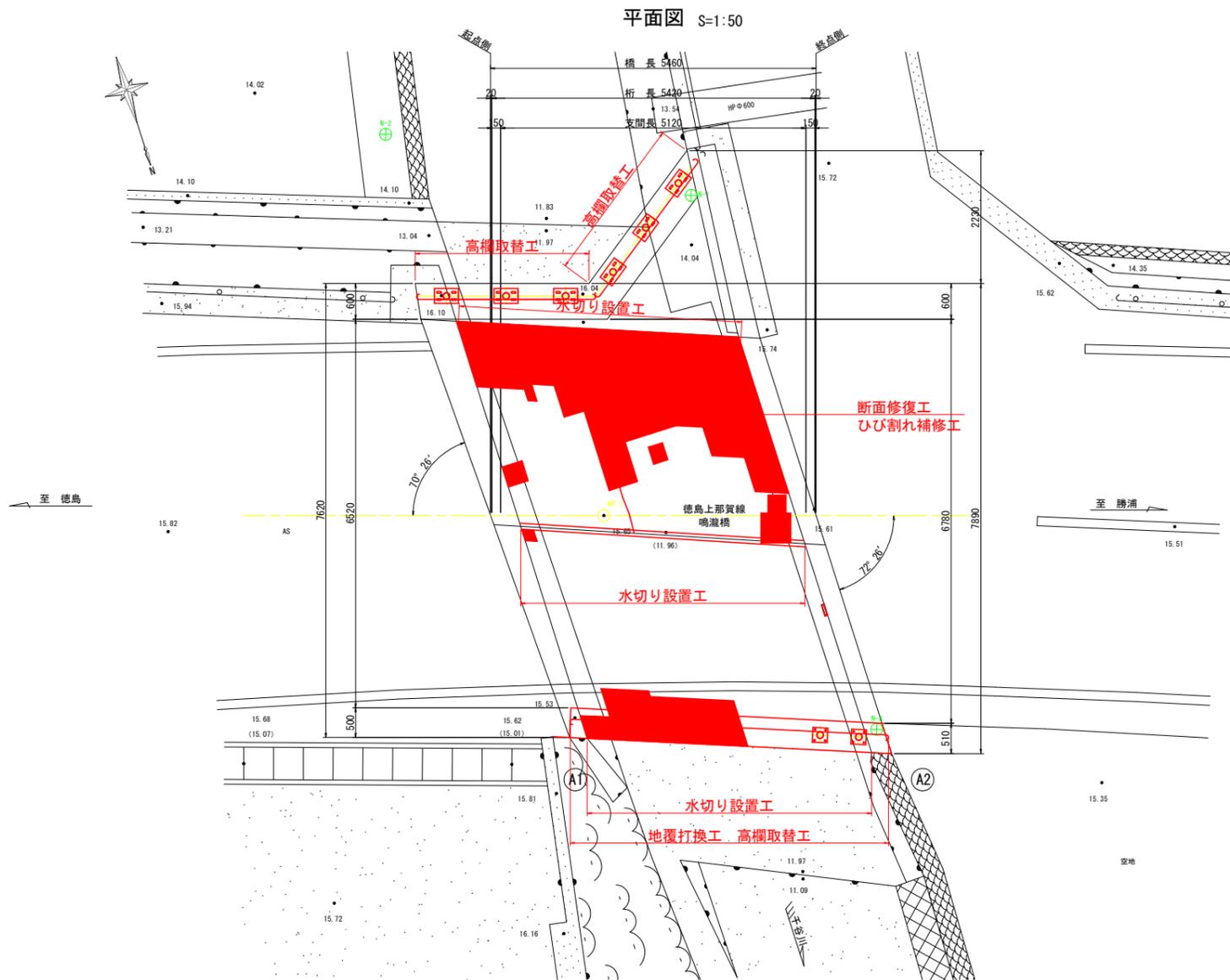


鳴瀧橋 補修計画一般図



DL=11.000



鳴瀧橋 補修工事内容一覧

工種	仕様
断面修復工	ポリマーセメントモルタル
ひび割れ補修工	エポキシ樹脂低圧注入
水切設置工	あと施工型(軟質PVC)
地覆打換工	RC構造(下流側)
高欄取替工	ガードレール(C種 曲柱), ガードレール(C種)
舗装撤去・復旧工	再生密粒度アスコン
区画線工	溶融式区画線 (W=150, 白色)

注記)

1. 施工前に調査を実施し、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
2. 寸法は、現場実測後決定する。

実施設計図面 【鳴瀧橋】

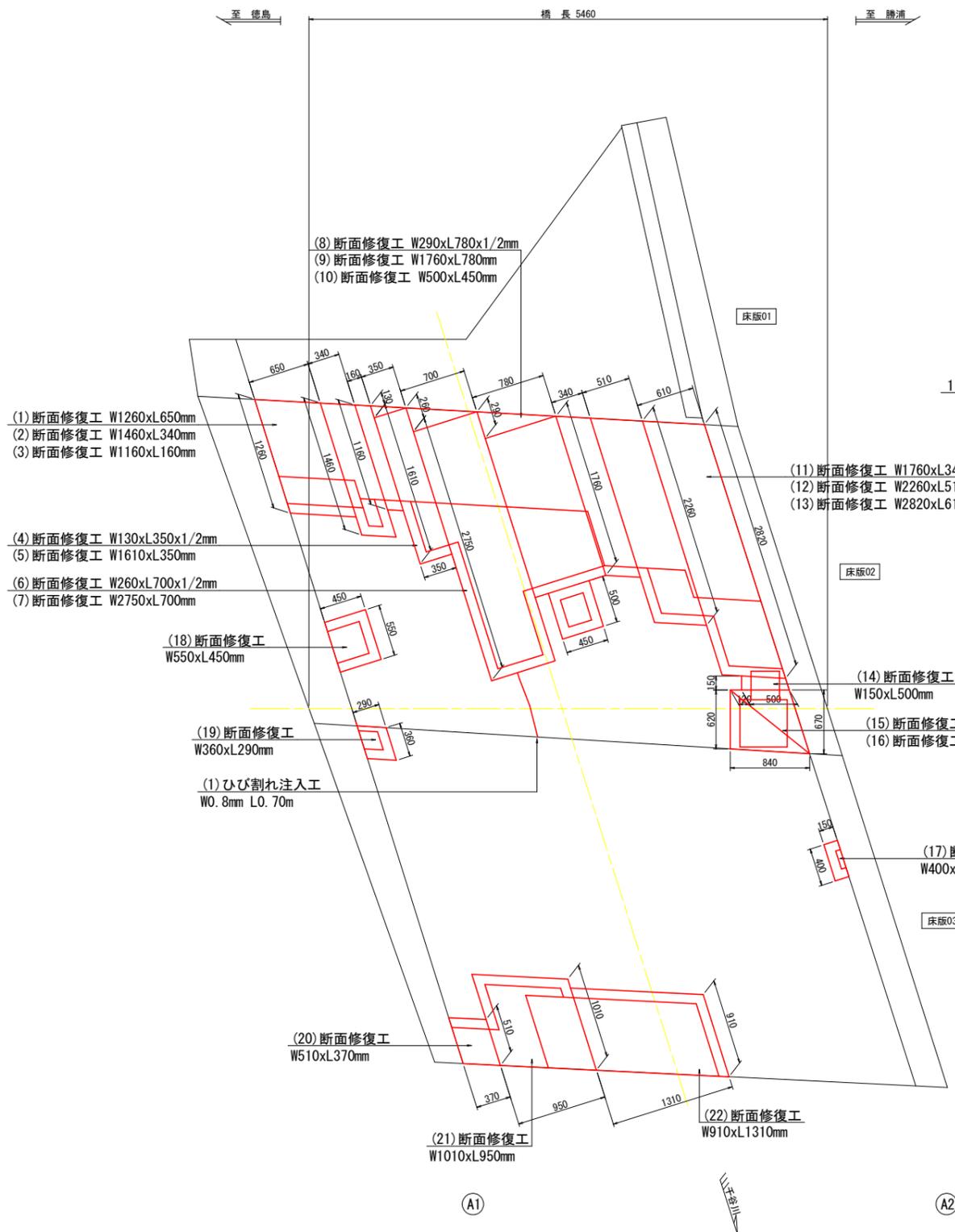
工事名	R7徳島 徳島上那賀線(鳴瀧橋・北飯谷橋)		
路線名等	徳島上那賀線 徳・飯谷 橋梁修繕工事		
工事箇所	徳島市飯谷町(鳴瀧橋・北飯谷橋)		
図面名	鳴瀧橋 補修計画一般図		
縮尺	S=1:50	図面番号	1 / 12
年度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

鳴瀧橋 補修工詳細図(1/2)

床版下面 補修図 S=1:30

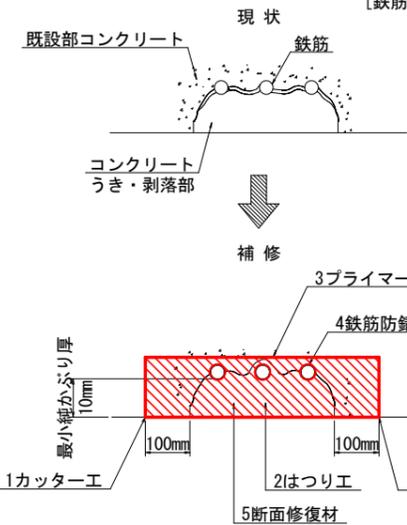
平面図

補修要領図

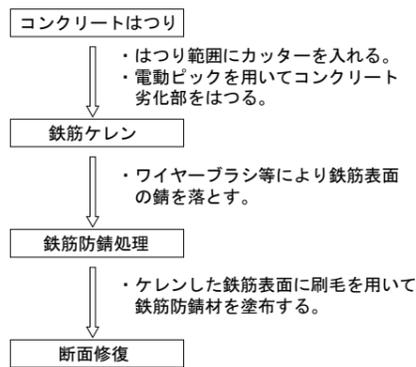


断面修復工

[鉄筋構造物：左官工法]



施工フロー図



- 1) 亜硝酸リチウムを混合したポリマーセメントモルタルをコテ塗りし、当初の形状に戻す。
- 2) 1回の埋め戻し厚は、20~30mmを標準とし、下層モルタルが十分硬化したことを確認したうえで、次層のモルタルを塗り重ねる。
- 3) 露出させた鉄筋の背面側には、断面修復材が回りにくいため、特に入念に埋め戻す必要がある。
- 4) 断面修復厚さは、各部位で設定している。

断面修復材量Vは下式より算出する。
 $V = W \cdot L \cdot t \cdot 1.18$
 ここに、
 V : 断面修復材量
 W : 修復幅
 L : 修復長
 t : 修復厚
 1.18 : ロス率

断面修復工(左官工法)

番号	幅(m)	長さ(m)	厚さ(m)	数量(m ³)	備考
(1)	1.26	0.65	0.05	0.041	床版02
(2)	1.46	0.34	0.05	0.025	"
(3)	1.16	0.16	0.05	0.009	"
(4)	0.13	0.35	0.05	0.001	床版02※
(5)	1.61	0.35	0.05	0.028	床版02
(6)	0.26	0.70	0.05	0.005	床版02※
(7)	2.75	0.70	0.05	0.096	床版02
(8)	0.29	0.78	0.05	0.006	床版02※
(9)	1.76	0.78	0.05	0.069	床版02
(10)	0.50	0.45	0.05	0.011	"
(11)	1.76	0.34	0.05	0.030	"
(12)	2.26	0.51	0.05	0.058	"
(13)	2.82	0.61	0.05	0.086	"
(14)	0.15	0.50	0.05	0.004	"
(15)	0.67	0.62	0.05	0.010	"
(16)	0.62	0.84	0.05	0.013	"
(17)	0.40	0.50	0.05	0.010	床版03
(18)	0.55	0.45	0.05	0.012	床版02
(19)	0.36	0.29	0.05	0.005	床版03
(20)	0.51	0.37	0.05	0.009	"
(21)	1.01	0.95	0.05	0.048	"
(22)	0.91	1.31	0.05	0.060	"
			合計	0.636	

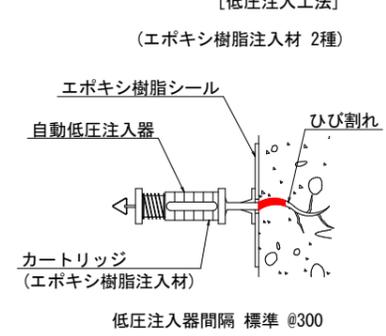
※は、A=幅×長さ×1/2

注記

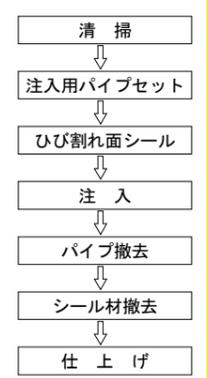
1. 鉄筋構造物の断面修復材は、亜硝酸リチウムを混合したポリマーセメントモルタルを基本とする。ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
2. 修復厚さは、現橋調査結果より、純かぶり28mm+主鉄筋φ18⇒50mm に設定している。
3. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
4. 鉄筋構造物は鉄筋の裏側まではつることを原則とする。ただし、鉄筋の腐食状況等を確認した上、はつり厚さを変更する場合は協議を行い決定すること。
5. 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

ひび割れ補修工

[低圧注入工法]



施工フロー図



注入力Vは下式より算出する。
 $V = 1200 \cdot b \cdot h \cdot L \cdot 1.20$
 ここに、
 V : 注入力
 1200 : エポキシ樹脂系注入材比重
 b : ひび割れ幅
 h : ひび割れ深さ
 L : ひび割れ延長
 1.20 : ロス率

ひび割れ補修工(低圧注入工法)

番号	幅(mm)	長さ(m)	深さ(m)	注入力(kg)	備考
(1)	0.80	0.70	0.05	0.034	床版02
			合計	0.034	

注記

1. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行い決定すること。
2. 注入工法の注入材は、エポキシ樹脂注入材2種を基本とする。ただし、施工性等から材料、種別等を変更する場合は協議を行い決定すること。
3. 注入深さは、50mmに設定している。
4. 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

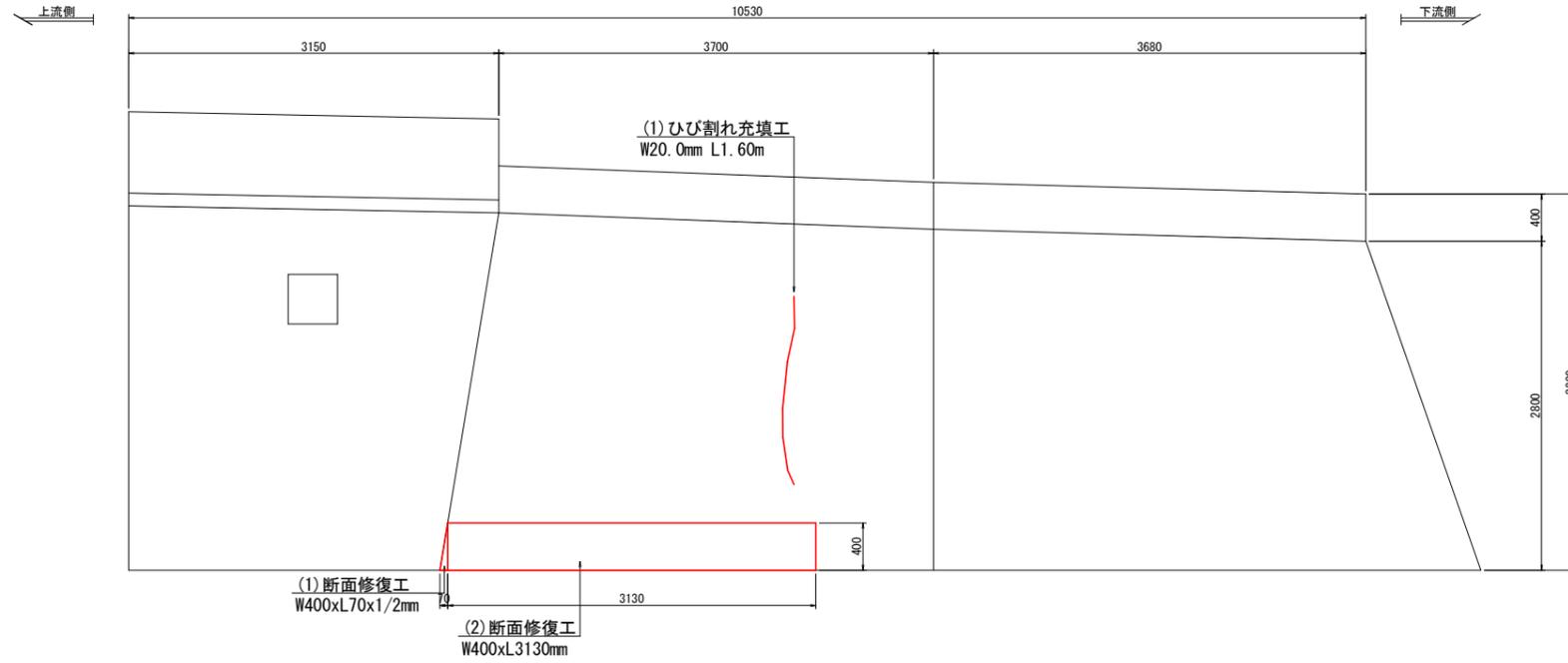
実施設計図面

【鳴瀧橋】

工事名	R7徳島 徳島上那賀線(鳴瀧橋・北飯谷橋) 徳島上那賀線 徳島上那賀線 橋梁補修工事		
路線名等	徳島上那賀線		
工事箇所	徳島市飯谷町(鳴瀧橋・北飯谷橋)		
図面名	鳴瀧橋 補修工詳細図(1/2)		
縮尺	S=1:30	図面番号	2 / 12
年度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

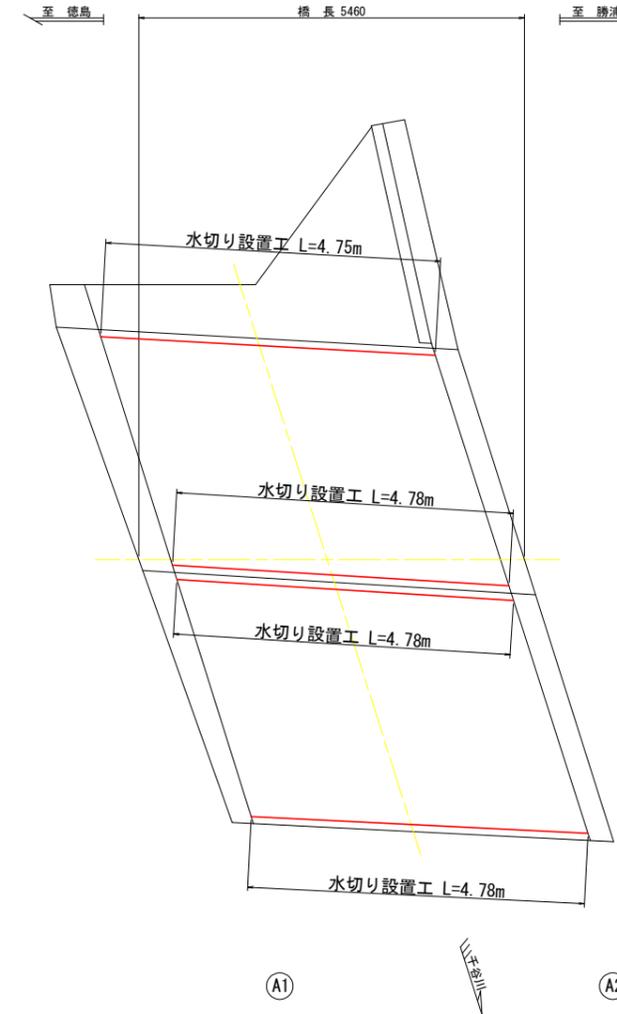
鳴瀧橋 補修工詳細図(2/2)

下部工 補修図 S=1:30
A2橋台正面図

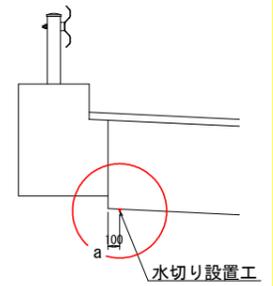


水切り設置工詳細図

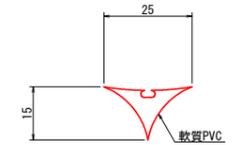
平面図 S=1:50



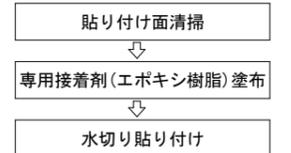
設置位置断面図 S=1:30



水切り詳細図(a部) S=1:1

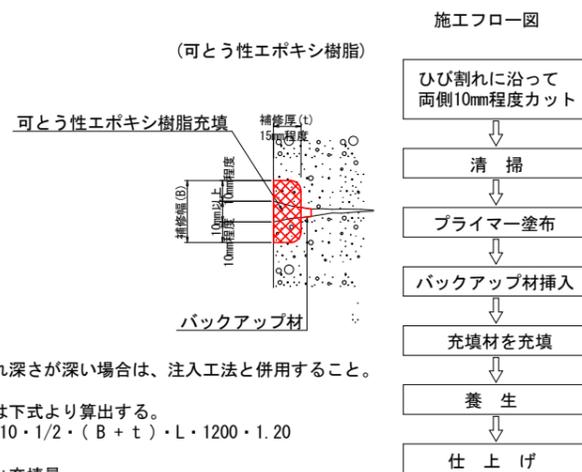


水切り設置施工フロー



注記)
水切りは打継部および上・下流に設置すること。

ひび割れ補修工 [充てん工法]



注記)
ひび割れ深さが深い場合は、注入工法と併用すること。

充填量は下式より算出する。
 $V=0.010 \cdot 1/2 \cdot (B + t) \cdot L \cdot 1200 \cdot 1.20$

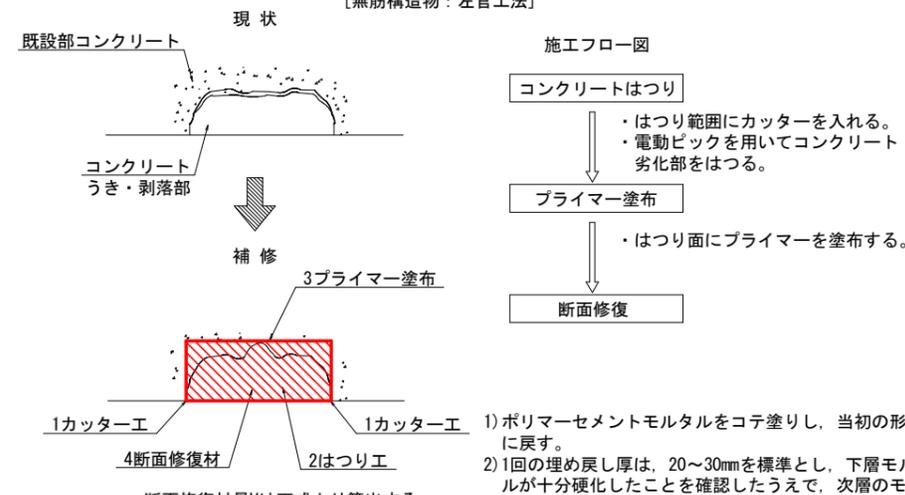
ここに、
V : 充填量
1200 : 可とう性エポキシ樹脂系充填材 比重 (kg/m³)
L : ひび割れ延長
B : 補修幅
t : 補修厚
1.20 : ロス率

番号	幅 (mm)	長さ (m)	充填量 (kg/m ³)	備考
(1)	20.0	1.60	0.336	A2橋台
		合計	0.336	

注記)
1. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
2. 充填工法の充填材量は、可とう性エポキシ樹脂系充填材を標準としている。ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
3. 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

断面修復工

[無筋構造物：左官工法]



断面修復材量Vは下式より算出する。
 $V=W \cdot L \cdot t \cdot 1.18$

ここに、
V : 断面修復材量
W : 修復幅
L : 修復長さ
t : 修復厚
1.18 : ロス率

断面修復工(左官工法)

番号	幅 (m)	長さ (m)	厚さ (m)	数量 (m ³)	備考
(1)	0.40	0.070	0.03	0.001	A2橋台※
(2)	0.40	3.13	0.03	0.038	A2橋台
		合計		0.039	

※は、A=幅×長さ×1/2

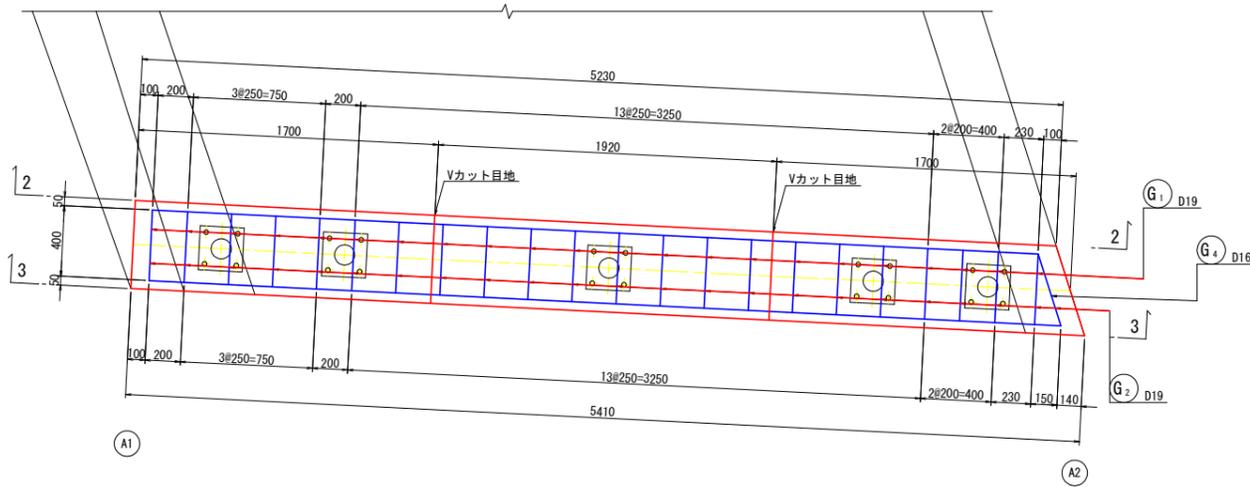
注記)
1. 無筋構造物の断面修復材は、ポリマーセメントモルタルを基本とする。ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
2. 修復厚さは、現橋調査結果より、下部工:30mm に設定している。ただし、現地計測を行い適切な厚さを確保すること。
3. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
4. 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

実施設計図面 【鳴瀧橋】

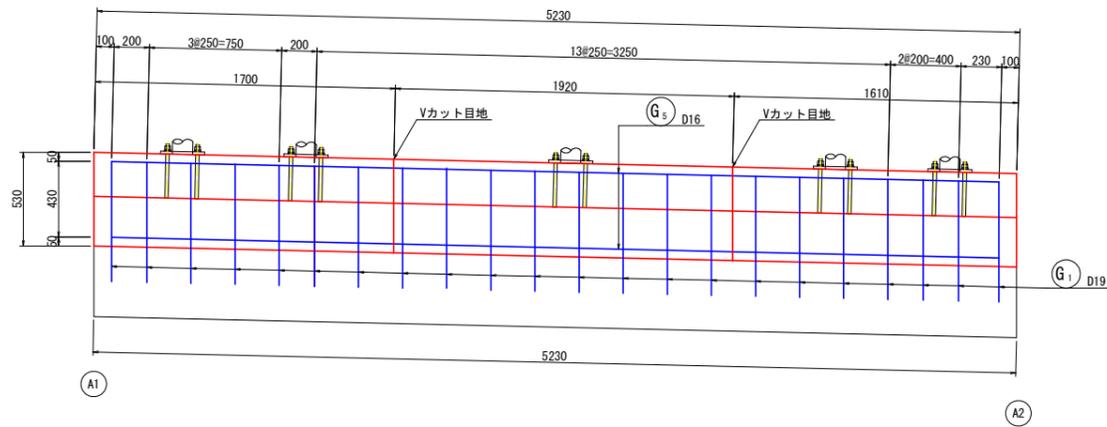
工事名	R7徳島 徳島上那賀線(鳴瀧橋・北飯谷橋) 徳・飯谷 橋梁修繕工事		
路線名等	徳島上那賀線		
工事箇所	徳島市飯谷町(鳴瀧橋・北飯谷橋)		
図面名	鳴瀧橋 補修工詳細図(2/2)		
縮尺	図示	図面番号	3 / 12
年度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

鳴瀧橋 地覆打換工詳細図

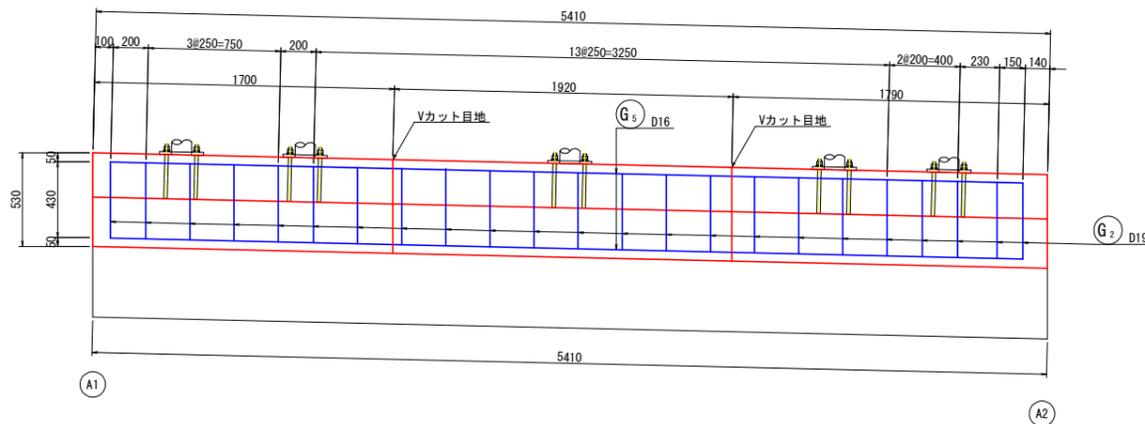
下流側平面図(1-1) S=1:20



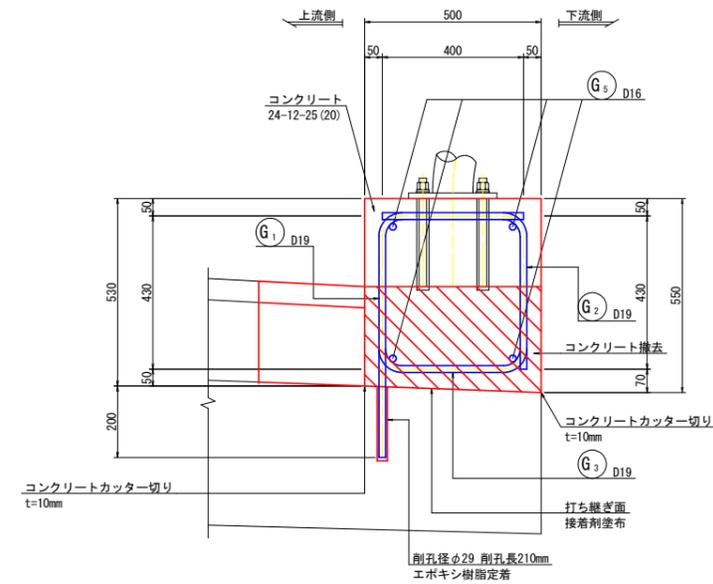
下流側側面図(2-2) S=1:20



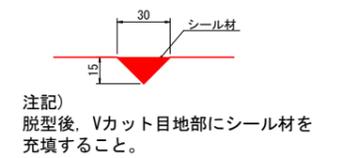
下流側側面図(3-3) S=1:20



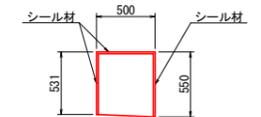
断面図(4-4) S=1:10



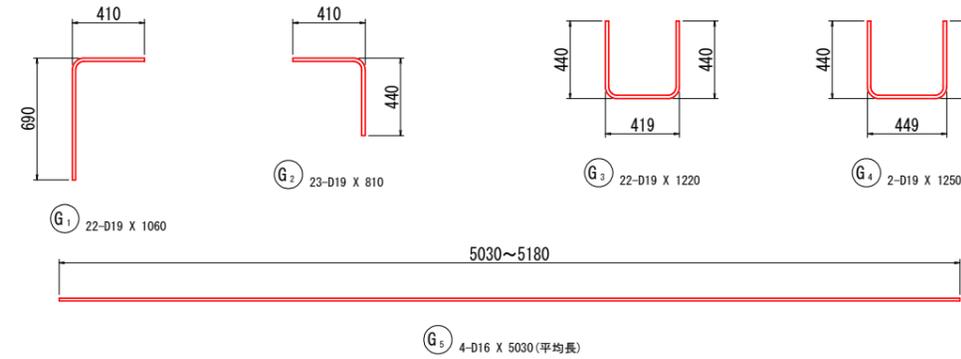
Vカット目地詳細図(参考図) S=1:2



シーリング材延長詳細図(断面図) S=1:30



鉄筋加工図



鉄筋質量表 (SD345)

種別	径	長さ	本数	単位質量	一本当り質量	質量	摘要	
G ₁	D19	1060	22	2.25	2.39	53	┌	
G ₂	D19	810	23	2.25	1.82	42	└	
G ₃	D19	1220	22	2.25	2.75	61	└┘	
G ₄	D19	1250	2	2.25	2.81	6	└┘	
G ₅	D16	5030	4	1.56	7.85	31	— (平均長)	
							193	
合計 D19					162 kg			
D16					31 kg			
総質量					193 kg			

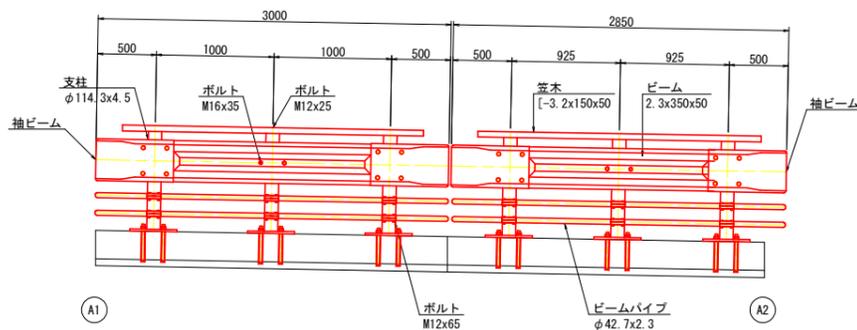
注記)
 1. 施工前に調査を実施し、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
 2. 寸法は、現場実測後決定する。

実施設計図面 【鳴瀧橋】

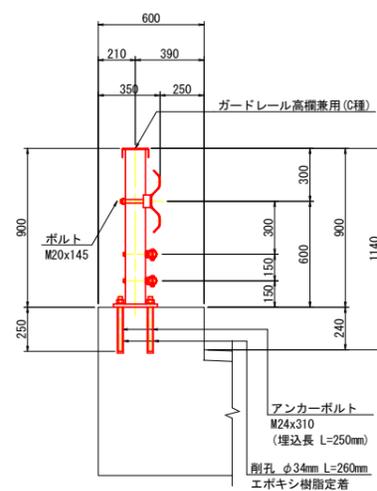
工事名	R7徳土 徳島上那賀線 (鳴瀧橋・北飯谷橋) 徳・飯谷 橋梁修繕工事		
路線名等	徳島上那賀線		
工事箇所	徳島市飯谷町 (鳴瀧橋・北飯谷橋)		
図面名	鳴瀧橋 地覆打換工詳細図		
縮尺	図示	図面番号	4 / 12
年度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

鳴瀧橋 高欄取替工詳細図

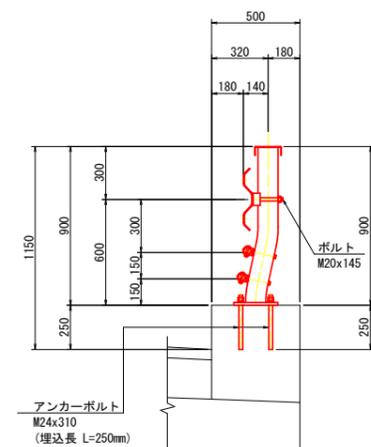
上流側側面図(1-1) S=1:30



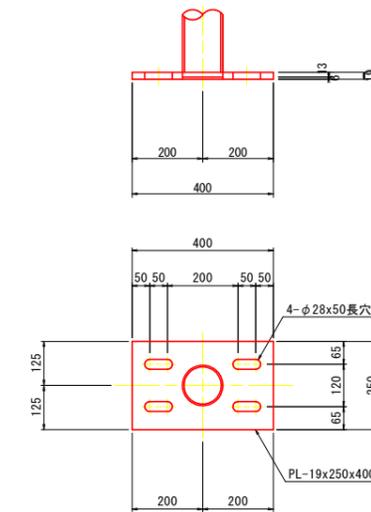
上流側側面図 S=1:20



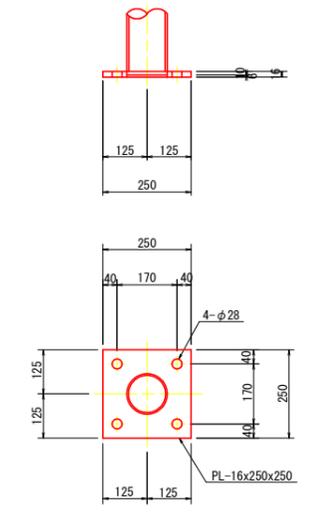
下流側側面図 S=1:20



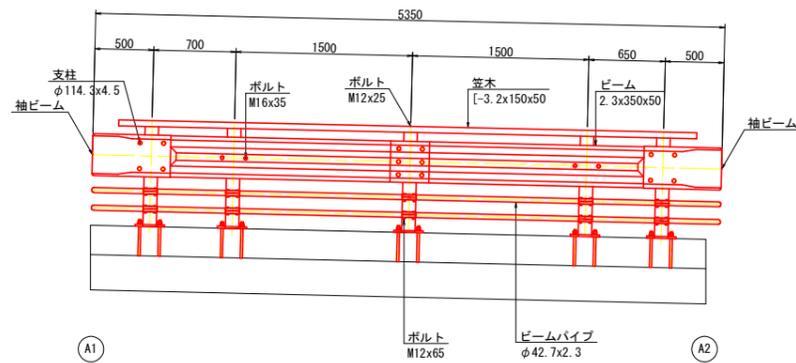
ベースプレート詳細図 S=1:10
(アンカー式固定)



ベースプレート詳細 S=1:10
(アンカー式固定)

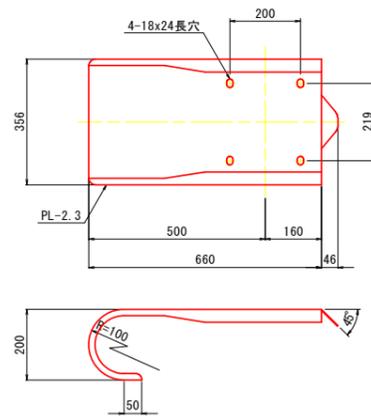


下流側側面図(2-2) S=1:30

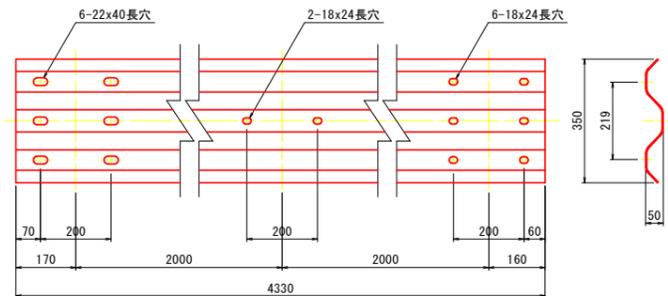


高欄詳細図 S=1:10

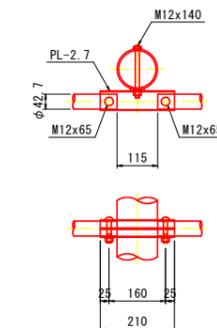
袖ビーム詳細図



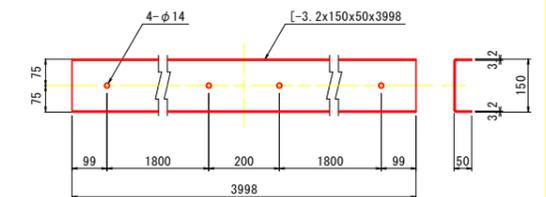
ビーム詳細図



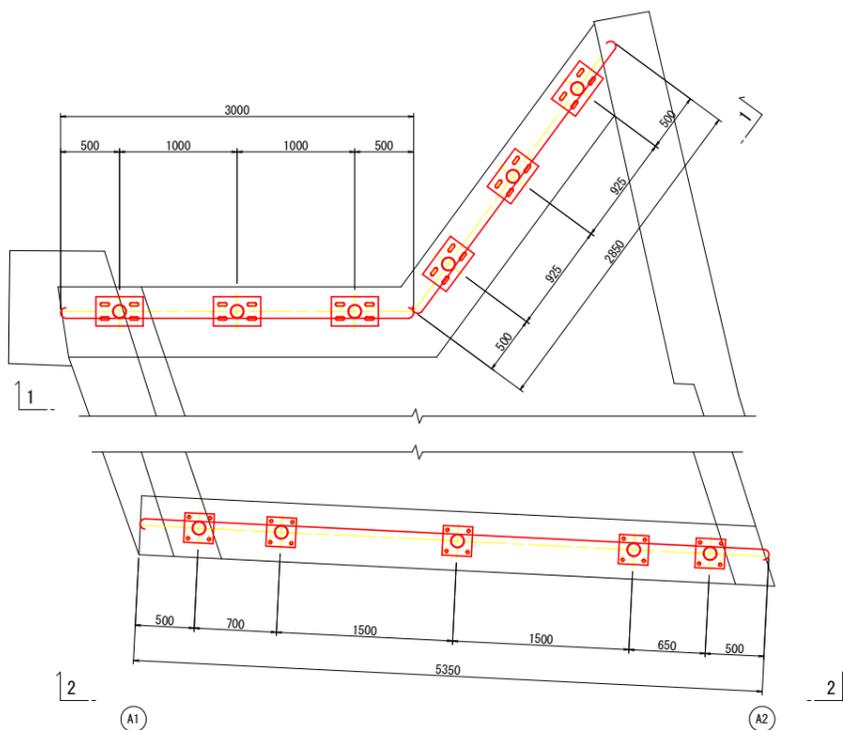
ビームパイプ接続部詳細図



笠木詳細図

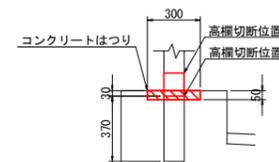


平面図 S=1:30

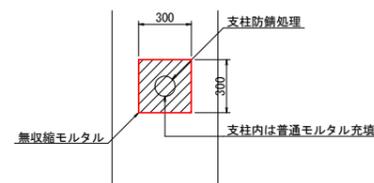
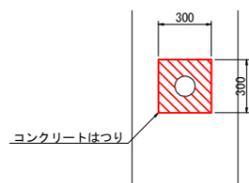
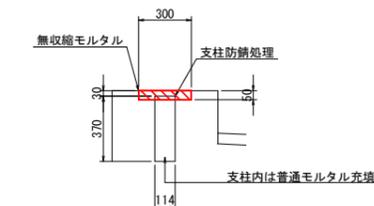


既設高欄撤去、地覆補修施工手順 S=1:20

STEP1: 既設高欄切断



STEP2: 地覆補修



注記

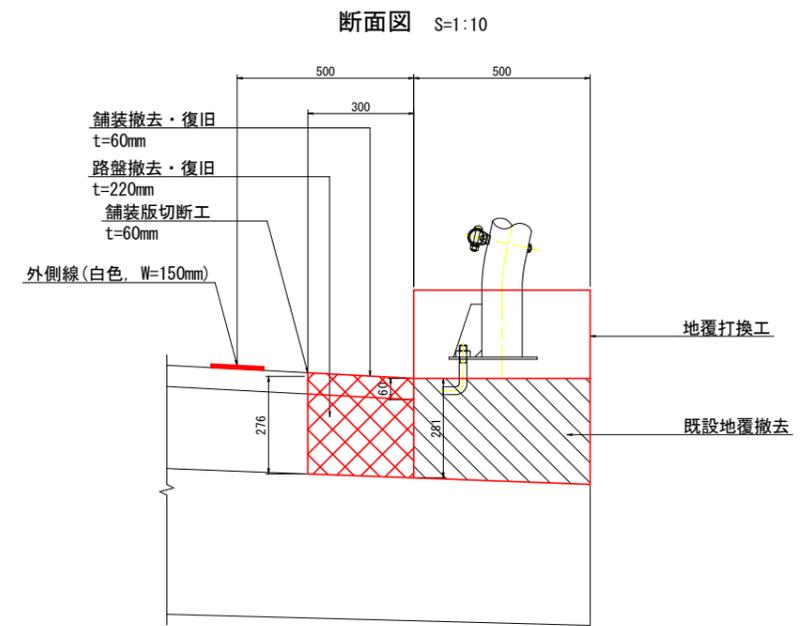
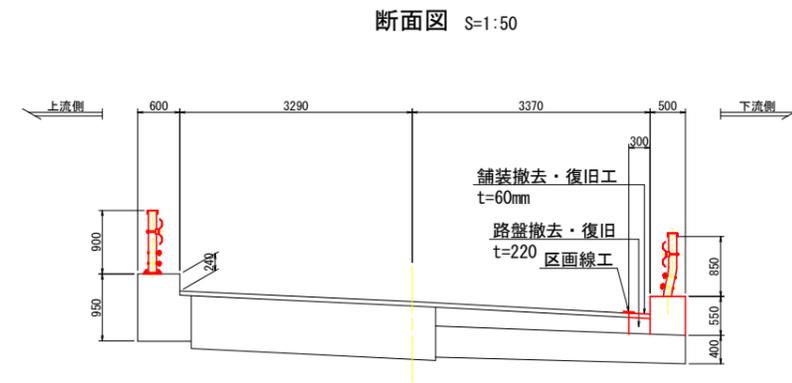
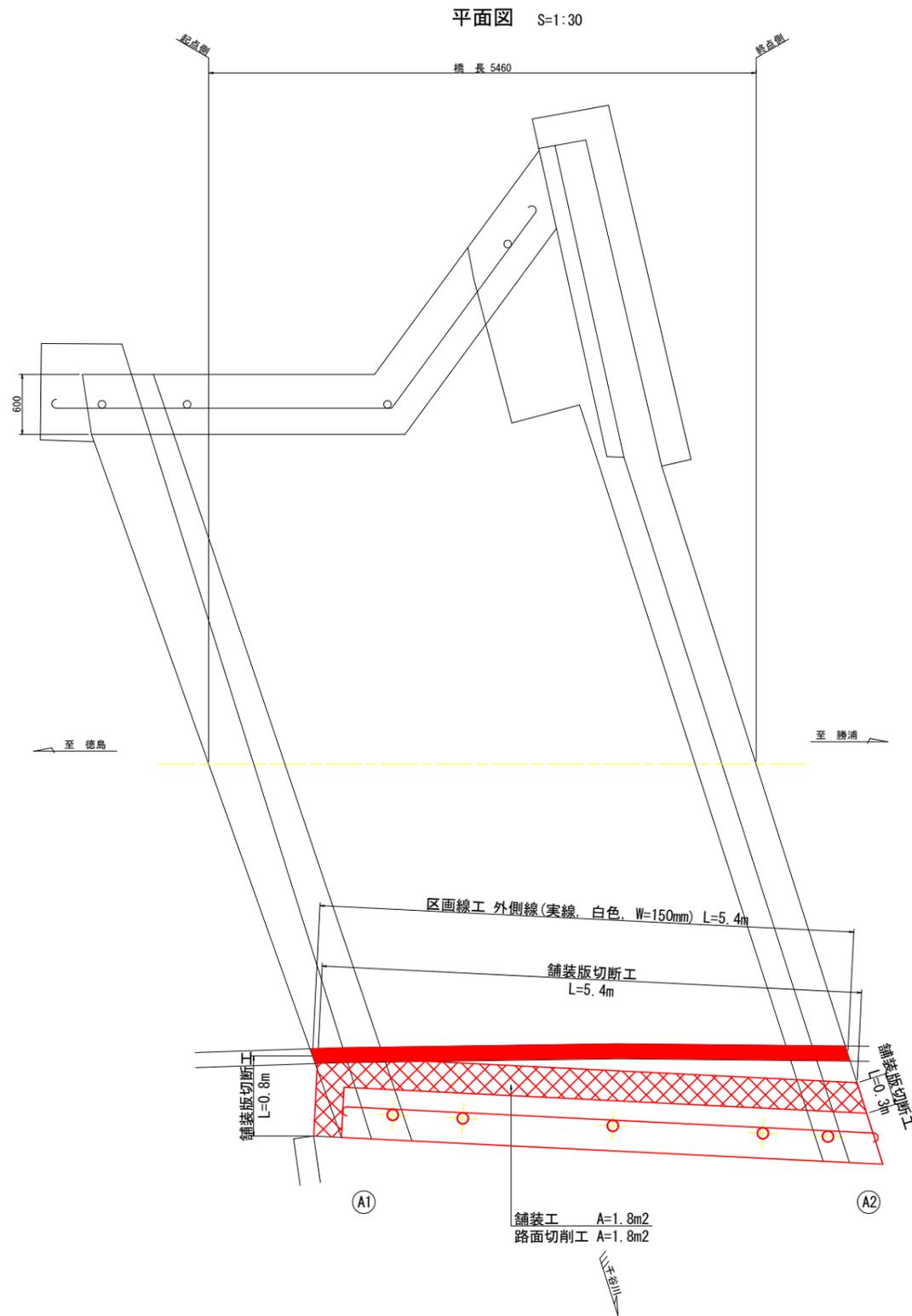
1. 高欄支柱の腐食が激しい場合は、健全な部位が表れるまで地覆をはつり、健全な箇所では支柱を切断するものとする。

注記)
1. 施工前に調査を実施し、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
2. 寸法は、現場実測後決定する。

実施設計図面 【鳴瀧橋】

工事名	R7 徳士 徳島上那賀線 (鳴瀧橋・北飯谷橋) 徳・飯谷 橋梁修繕工事		
路線名等	徳島上那賀線		
工事箇所	徳島市飯谷町 (鳴瀧橋・北飯谷橋)		
図面名	鳴瀧橋 高欄取替工詳細図		
縮尺	図示	図面番号	5 / 12
年度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

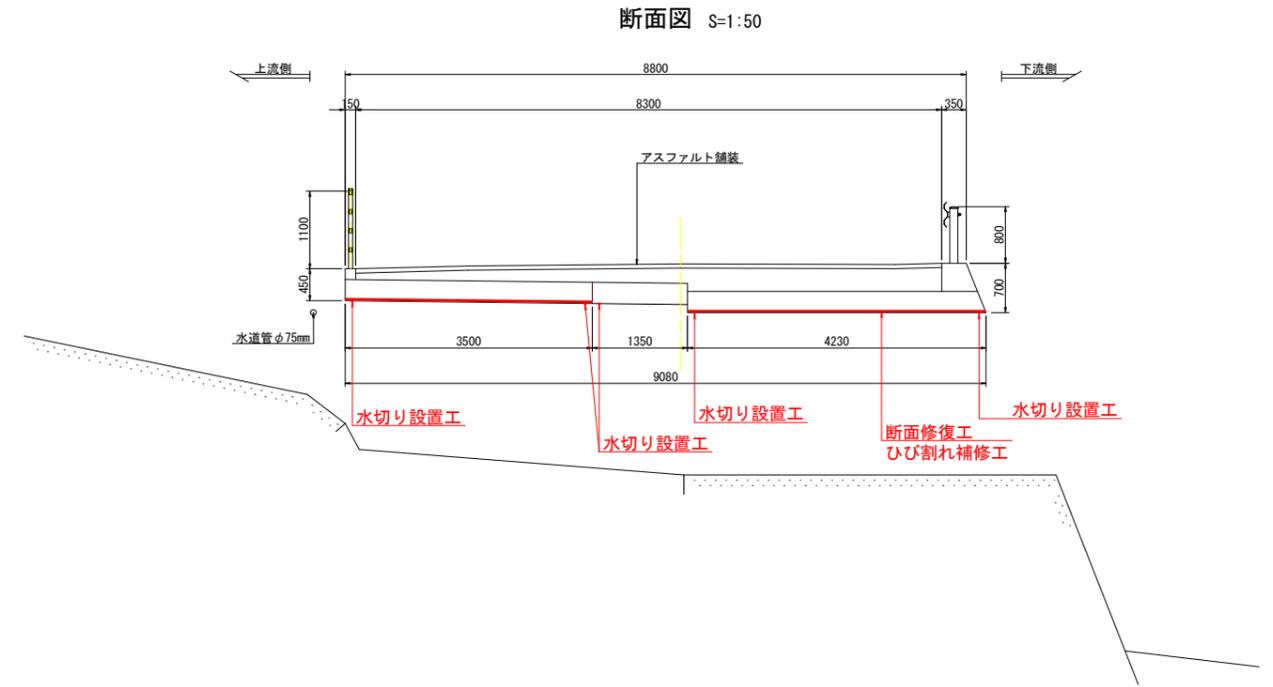
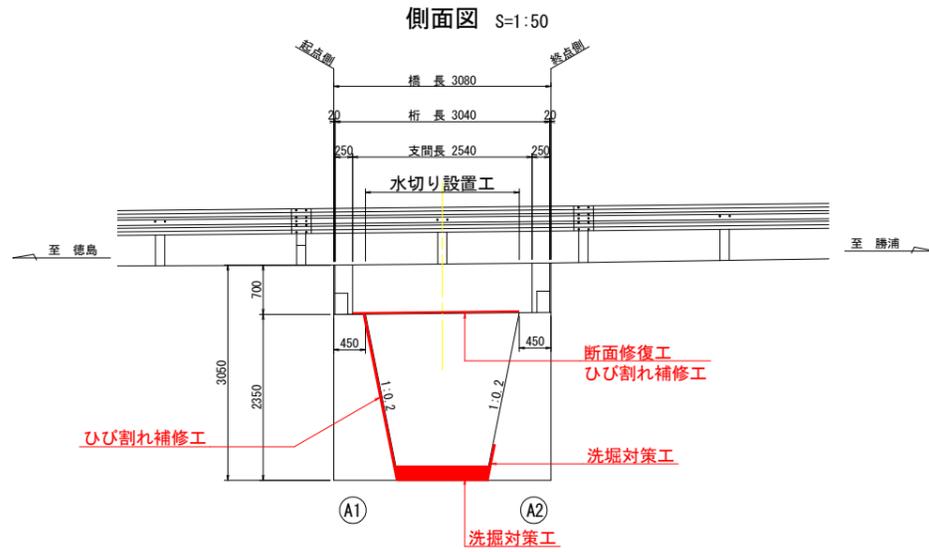
鳴瀧橋 舗装撤去・復旧工詳細図



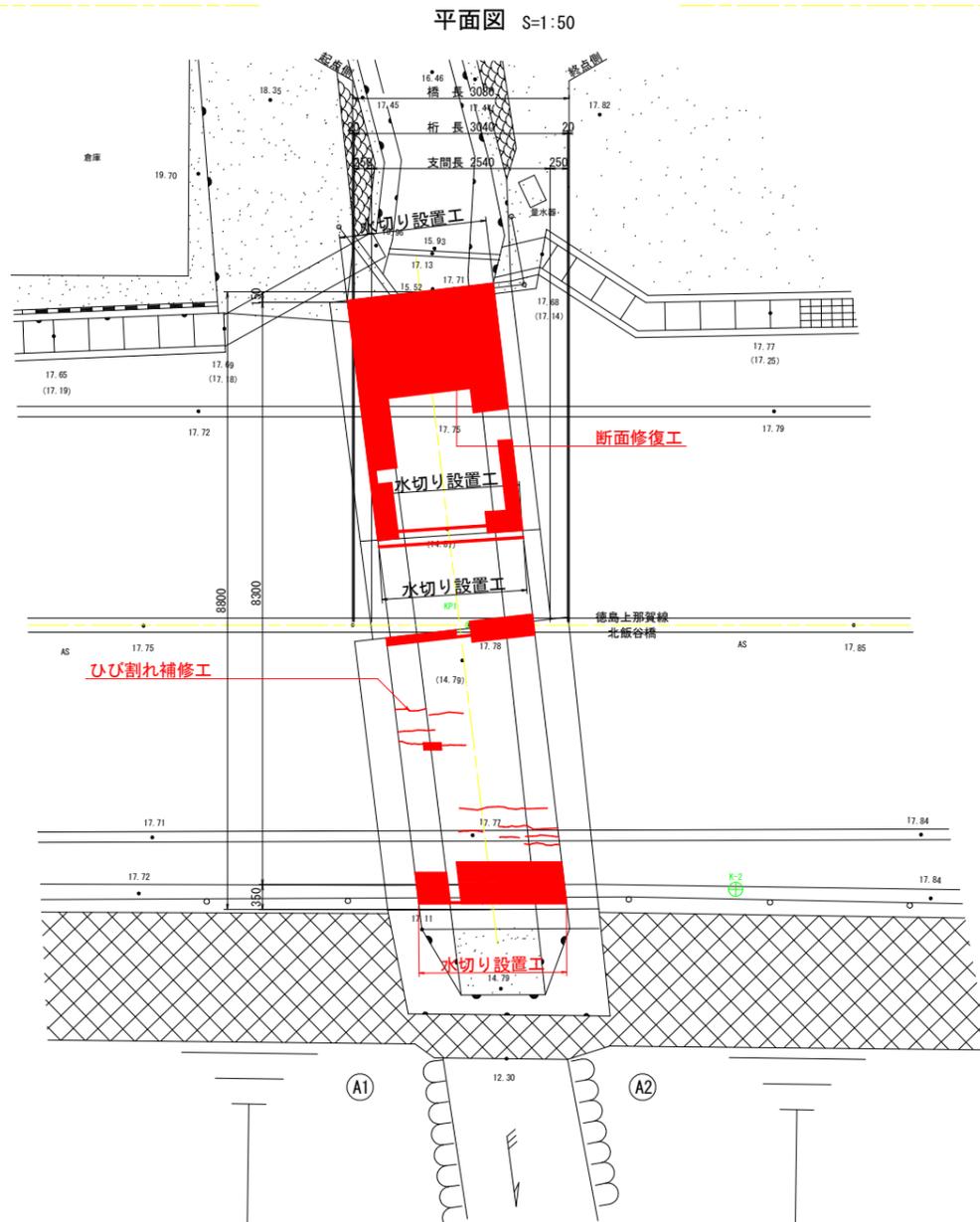
- 注記
1. 施工前に調査を実施し、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
 2. 舗装厚および路盤厚は推定であるため現場実測後決定すること。

実施設計図面		【鳴瀧橋】	
工事名	R7 徳島 徳島上那賀線 (鳴瀧橋・北飯谷橋) 徳島上那賀線 徳島市飯谷町 (鳴瀧橋・北飯谷橋) 橋梁修繕工事		
路線名等	徳島上那賀線		
工事箇所	徳島市飯谷町 (鳴瀧橋・北飯谷橋)		
図面名	鳴瀧橋 舗装撤去・復旧工詳細図		
縮尺	図示	図面番号	6 / 12
年度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

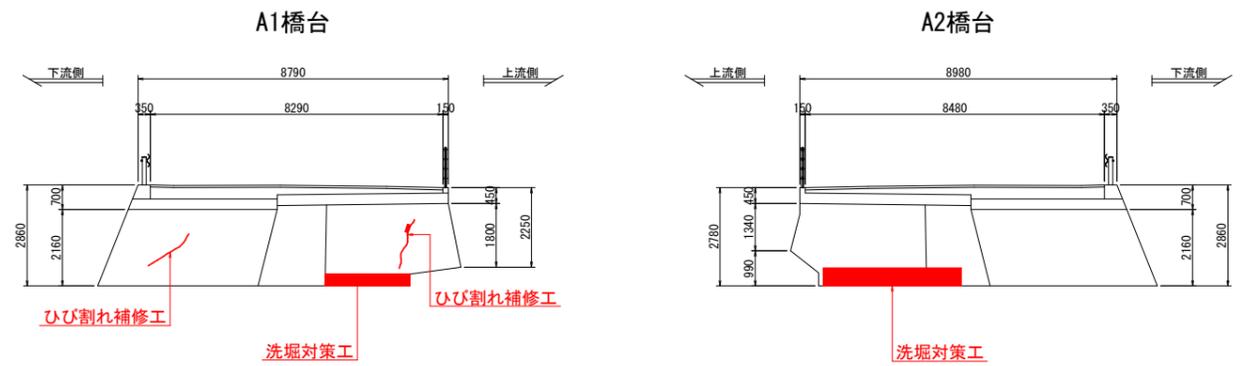
北飯谷橋 補修計画一般図



DL=13.000



下部工正面図 S=1:100



北飯谷橋 補修工事内容一覧

工種	仕様
断面修復工	ポリマーセメントモルタル
ひび割れ補修工	エポキシ樹脂低圧注入
水切設置工	あと施工型(軟質PVC)
洗堀対策工	河床コンクリート、コンクリート充填

注記)

1. 施工前に調査を実施し、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
2. 寸法は、現場実測後決定する。

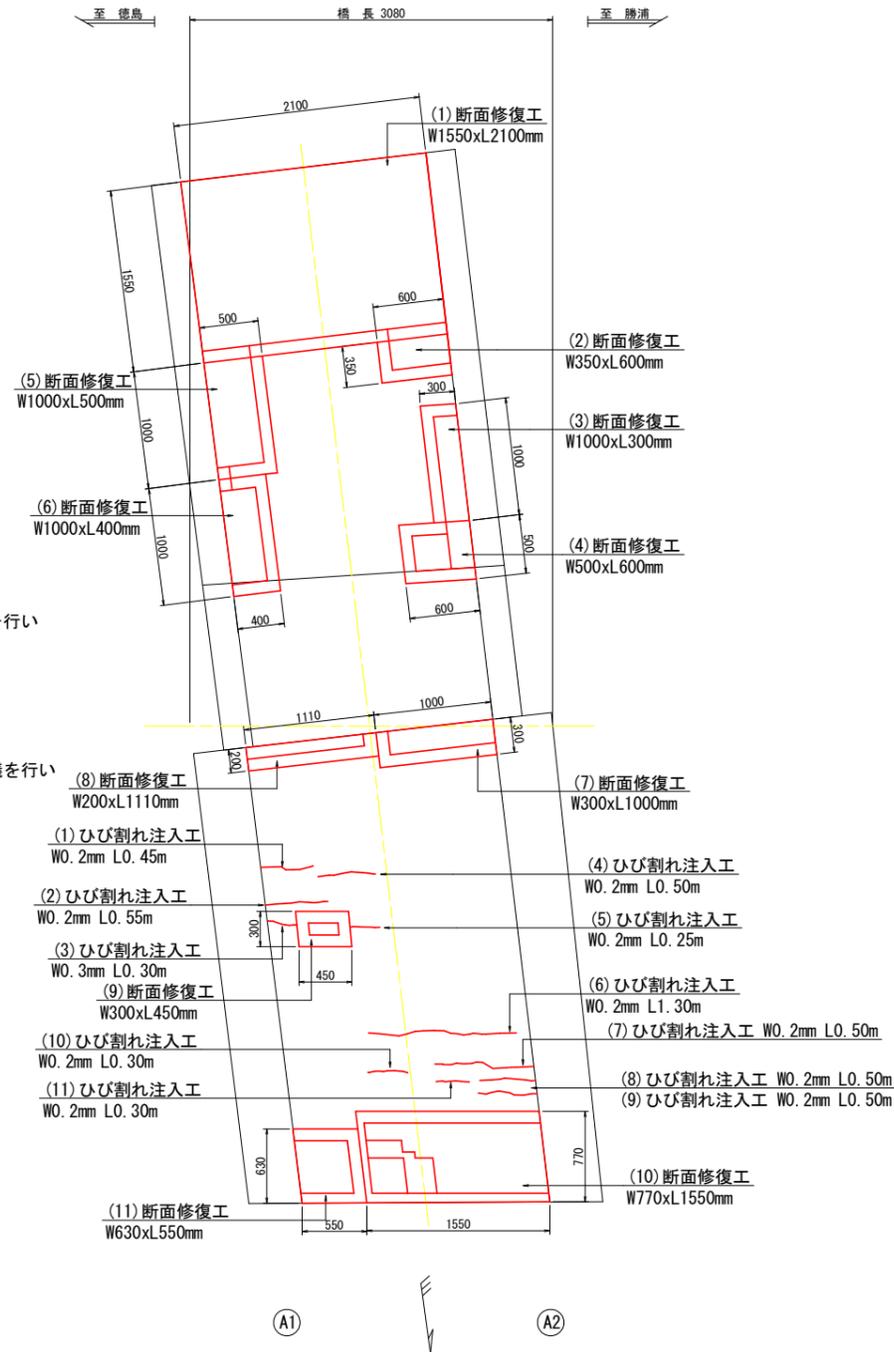
実施設計図面 【北飯谷橋】

工事名	R7 徳島 徳島上那賀線 (鳴瀬橋・北飯谷橋)		
路線名等	徳島上那賀線 徳・飯谷 橋梁補修工事		
工事箇所	徳島市飯谷町 (鳴瀬橋・北飯谷橋)		
図面名	北飯谷橋 補修計画一般図		
縮尺	図示	図面番号	7 / 12
年度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

北飯谷橋 補修工詳細図(1/3)

床版下面 補修図

平面図 S=1:30



断面修復工(左官工法)

番号	幅(m)	長さ(m)	厚さ(m)	数量(m3)	備考
(1)	1.55	2.10	0.03	0.098	床版01
(2)	0.35	0.60	0.03	0.006	"
(3)	1.00	0.30	0.03	0.009	"
(4)	0.50	0.60	0.03	0.009	"
(5)	1.00	0.50	0.03	0.015	"
(6)	1.00	0.40	0.03	0.012	"
(7)	0.30	1.00	0.04	0.012	床版03
(8)	0.20	1.11	0.04	0.009	"
(9)	0.30	0.45	0.04	0.005	"
(10)	0.77	1.55	0.04	0.048	"
(11)	0.63	0.55	0.04	0.014	"
合計				0.237	

注記

- 鉄筋構造物の断面修復材は、亜硝酸リチウムを混合したポリマーセメントモルタルを基本とする。ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
- 修復厚さは、現橋調査結果より、床版01~02:最小かぶり10mm(純かぶり7mm)+主鉄筋φ16=>30mm、床版03:純かぶり19mm+主鉄筋φ19=>40mm に設定している。
- 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
- 鉄筋構造物は鉄筋の裏側まではつることを原則とする。ただし、鉄筋の腐食状況等を確認した上、はつり厚さを変更する場合は協議を行い決定すること。
- 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

ひび割れ補修工(低圧注入工法)

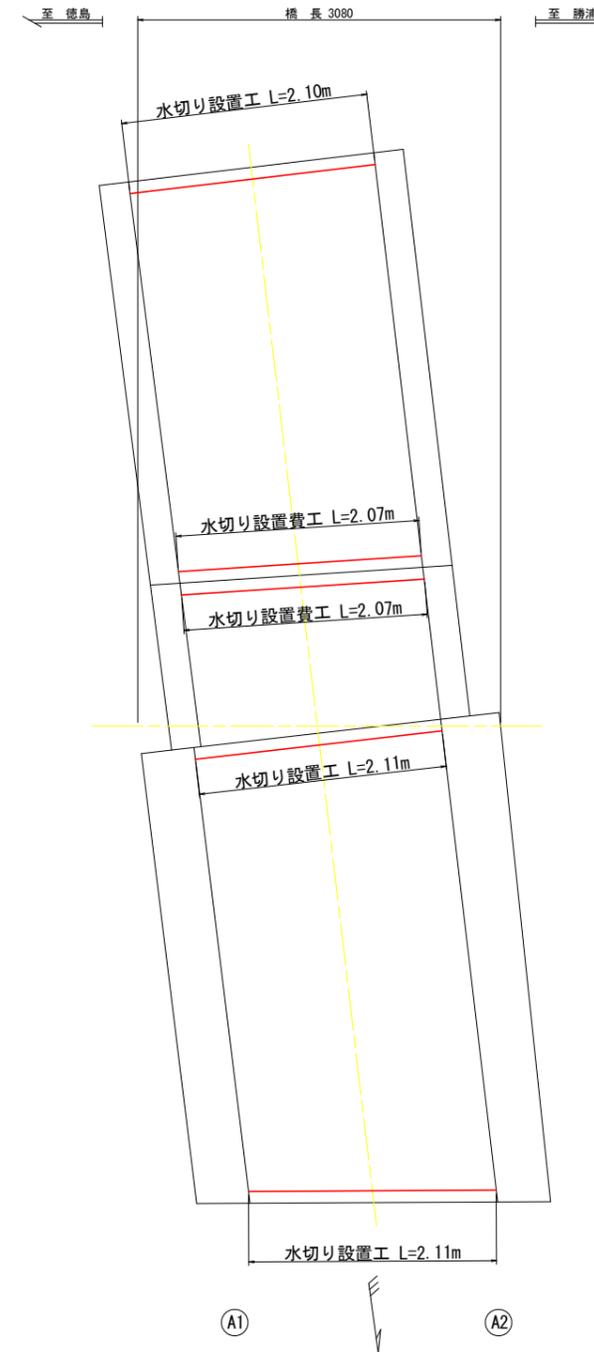
番号	幅(mm)	長さ(m)	深さ(m)	注入量(kg)	備考
(1)	0.20	0.45	0.05	0.005	床版03
(2)	0.20	0.55	0.05	0.007	"
(3)	0.30	0.30	0.05	0.005	"
(4)	0.20	0.50	0.05	0.006	"
(5)	0.20	0.25	0.05	0.003	"
(6)	0.20	1.30	0.05	0.016	"
(7)	0.20	0.50	0.05	0.006	"
(8)	0.20	0.50	0.05	0.006	"
(9)	0.20	0.50	0.05	0.006	"
(10)	0.20	0.30	0.05	0.004	"
(11)	0.20	0.30	0.05	0.004	"
合計				0.068	"

注記

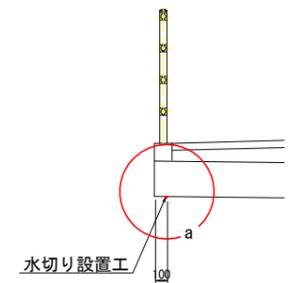
- 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
- 注入工法の注入材は、エポキシ樹脂注入材2種を基本とする。ただし、施工性等から材料、種別等を変更する場合は協議を行い決定すること。
- 注入深さは、50mmに設定している。
- 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

水切り設置工詳細図

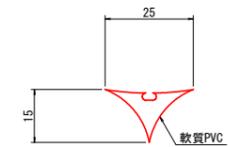
平面図 S=1:30



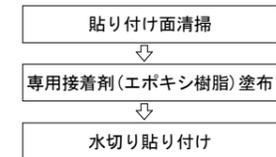
設置位置断面図 S=1:30



水切り詳細図(a部) S=1:1



水切り設置施工フロー



注記

- 水切りは打継部および上・下流に設置すること。

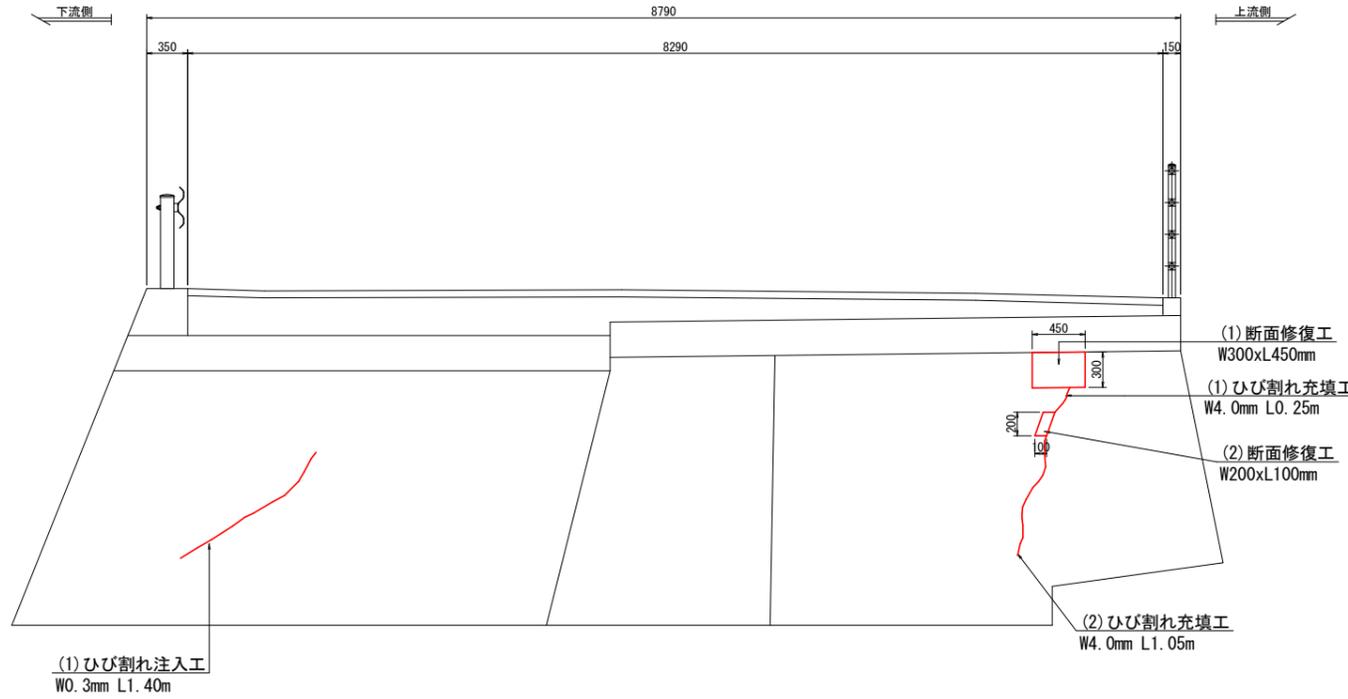
実施設計図面 【北飯谷橋】

工事名	R7徳士 徳島上那賀線(鳴瀬橋・北飯谷橋) 徳・飯谷 橋梁補修工事		
路線名等	徳島上那賀線		
工事箇所	徳島市飯谷町(鳴瀬橋・北飯谷橋)		
図面名	北飯谷橋 補修工詳細図(1/3)		
縮尺	S=1:30	図面番号	8 / 12
年度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

北飯谷橋 補修工詳細図(2/3)

下部工 補修図 S=1:30

A1橋台正面図



断面修復工(左官工法)

番号	幅(m)	長さ(m)	厚さ(m)	数量(m3)	備考
(1)	0.30	0.45	0.03	0.004	A1橋台
(2)	0.20	0.10	0.03	0.001	〃
合計				0.005	

注記)

- 無筋構造物の断面修復材は、ポリマーセメントモルタルを基本とする。ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
- 修復厚さは、現橋調査結果より、下部工:30mm に設定している。ただし、現地計測を行い適切な厚さを確保すること。
- 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
- 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

ひび割れ補修工(低圧注入工法)

番号	幅(mm)	長さ(m)	深さ(m)	注入量(kg)	備考
(1)	0.30	1.40	0.05	0.025	A1橋台
合計				0.025	

注記)

- 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行い決定すること。
- 注入工法の注入材は、エポキシ樹脂注入材2種を基本とする。ただし、施工性等から材料、種別等を変更する場合は協議を行い決定すること。
- 注入深さは、50mmに設定している。
- 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

ひび割れ補修工(充てん工法)

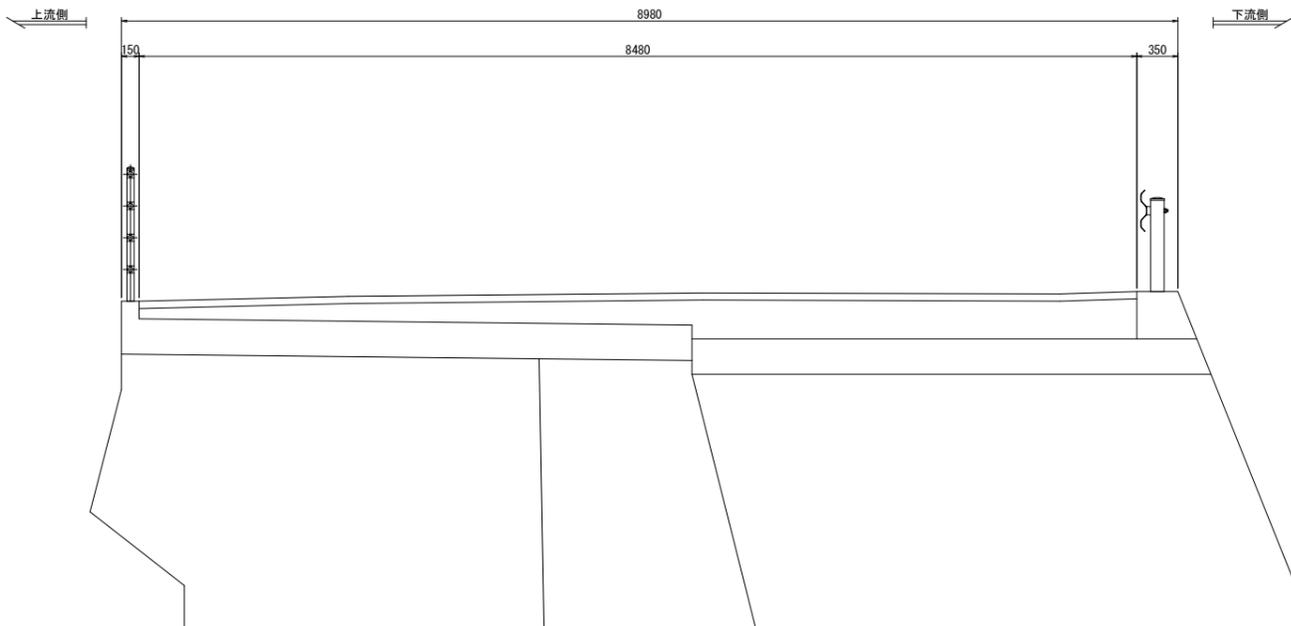
番号	幅(mm)	長さ(m)	充填量(kg/m3)	備考
(1)	4.0	0.25	0.038	A1橋台
(2)	4.0	1.05	0.158	〃
合計			0.196	

注記)

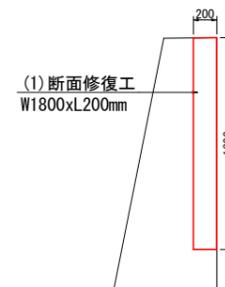
- 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
- 充填工法の充填材量は、可とう性エポキシ樹脂系充填材を標準としている。ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
- 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

A2橋台正面図

S=1:30



下流側側面図



断面修復工(左官工法)

番号	幅(m)	長さ(m)	厚さ(m)	数量(m3)	備考
(1)	1.80	0.20	0.03	0.011	A2橋台
合計				0.011	

注記)

- 無筋構造物の断面修復材は、ポリマーセメントモルタルを基本とする。ただし、施工性等から材料を変更する場合は協議を行い決定すること。
- 修復厚さは、現橋調査結果より、下部工:30mm に設定している。ただし、現地計測を行い適切な厚さを確保すること。
- 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
- 数量表は、ロス率を加味しない値を示す。

実施設計図面 【北飯谷橋】

工事名	R7徳土 徳島上那賀線(鳴瀬橋・北飯谷橋)		
路線名等	徳島上那賀線 徳・飯谷 橋梁修繕工事		
工事箇所	徳島市飯谷町(鳴瀬橋・北飯谷橋)		
図面名	北飯谷橋 補修工詳細図(2/3)		
縮尺	S=1:30	図面番号	9 / 12
年度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

北飯谷橋 補修工詳細図(3/3)

補修要領図

断面修復工 [鉄筋構造物：左官工法]

施工フロー図

- コンクリートはつり
 - はつり範囲にカッターを入れる。
 - 電動ピックを用いてコンクリート劣化部をはつる。
- 鉄筋ケレン
 - ワイヤーブラシ等により鉄筋表面の錆を落とす。
- 鉄筋防錆処理
 - ケレンした鉄筋表面に刷毛を用いて鉄筋防錆材を塗布する。
- 断面修復
 - 亜硝酸リチウムを混合したポリマーセメントモルタルをコテ塗りし、当初の形状に戻す。
 - 1回の埋め戻し厚は、20~30mmを標準とし、下層モルタルが十分硬化したことを確認したうえで、次層のモルタルを塗り重ねる。
 - 露出させた鉄筋の背面側には、断面修復材が回りにくいため、特に入念に埋め戻す必要がある。
 - 断面修復厚さは、各部材で設定している。

断面修復材量Vは下式より算出する。
 $V=W \cdot L \cdot t \cdot 1.18$
 ここに、
 V : 断面修復材量
 W : 修復幅
 L : 修復長
 t : 修復厚
 1.18 : ロス率

断面修復工 [無筋構造物：左官工法]

施工フロー図

- コンクリートはつり
 - はつり範囲にカッターを入れる。
 - 電動ピックを用いてコンクリート劣化部をはつる。
- プライマー塗布
 - はつり面にプライマーを塗布する。
- 断面修復
 - ポリマーセメントモルタルをコテ塗りし、当初の形状に戻す。
 - 1回の埋め戻し厚は、20~30mmを標準とし、下層モルタルが十分硬化したことを確認したうえで、次層のモルタルを塗り重ねる。
 - 断面修復厚さは、各部材で設定している。

断面修復材量Vは下式より算出する。
 $V=W \cdot L \cdot t \cdot 1.18$
 ここに、
 V : 断面修復材量
 W : 修復幅
 L : 修復長
 t : 修復厚
 1.18 : ロス率

ひび割れ補修工 [低圧注入工法]

(エポキシ樹脂注入材 2種)

低圧注入器間隔 標準 @300

注入量Vは下式より算出する。
 $V=1200 \cdot b \cdot h \cdot L \cdot 1.20$
 ここに、
 V : 注入量
 1200 : エポキシ樹脂系注入材比重
 b : ひびわれ幅
 h : ひびわれ深さ
 L : ひび割れ延長
 1.20 : ロス率

施工フロー図

- 清掃
- 注入用パイプセット
- ひび割れ面シール
- 注入
- パイプ撤去
- シール材撤去
- 仕上げ

ひび割れ補修工 [充てん工法]

(可とう性エポキシ樹脂)

施工フロー図

- ひび割れ面をU又はVカット
- 清掃
- プライマー塗布
- バックアップ材挿入
- 充填材を充填
- 養生
- 仕上げ

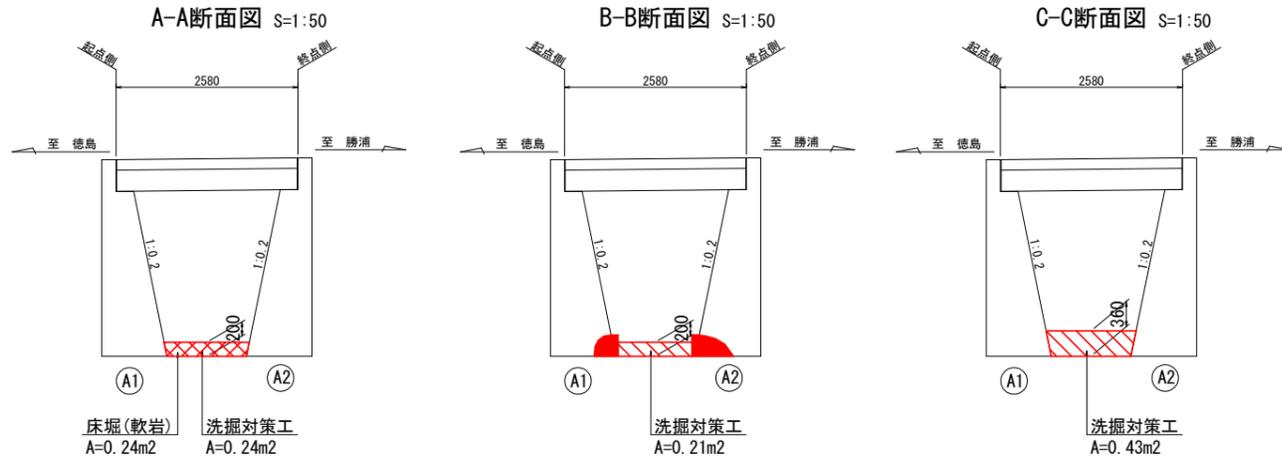
注記
 ひび割れ深さが深い場合は、注入工法と併用すること。

充填量は下式より算出する。
 $V=0.010 \cdot 1/2 \cdot (0.010+0.015) \cdot L \cdot 1200 \cdot 1.20$
 ここに、
 V : 充填量
 1200 : 可とう性エポキシ樹脂系充填材 比重 (kg/m3)
 L : ひび割れ延長
 1.20 : ロス率

実施設計図面 【北飯谷橋】

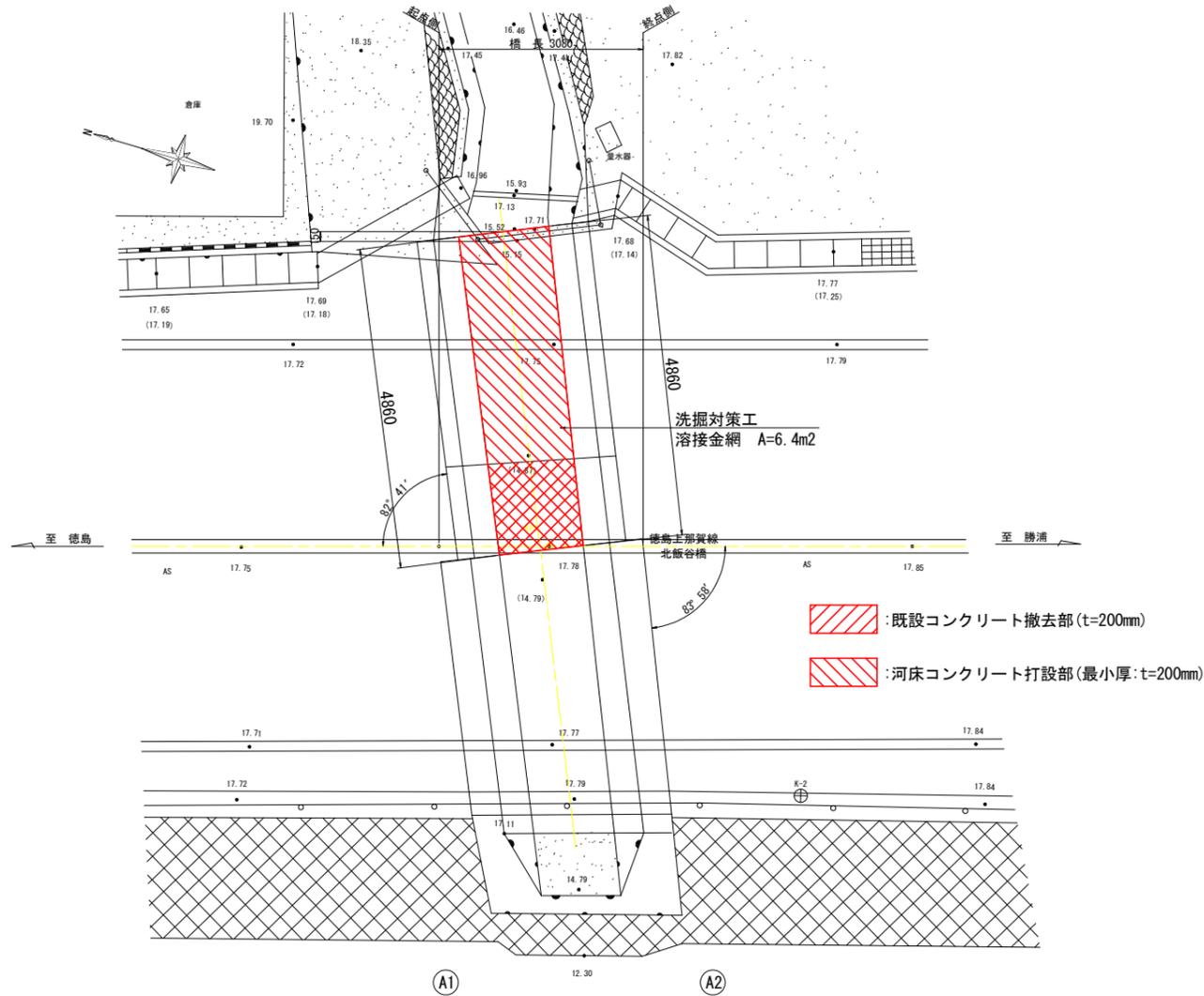
工事名	R7徳土 徳島上那賀線 (鳴瀬橋・北飯谷橋) 徳・飯谷 橋梁補修工事		
路線名等	徳島上那賀線		
工事箇所	徳島市飯谷町 (鳴瀬橋・北飯谷橋)		
図面名	北飯谷橋 補修工詳細図(3/3)		
縮尺	-	図面番号	10 / 12
年度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

北飯谷橋 洗掘対策工詳細図(1/2)

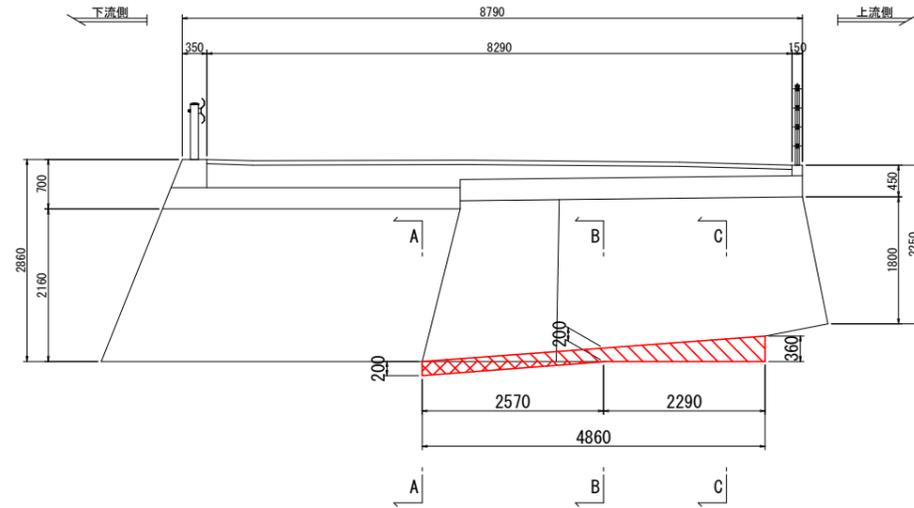


DL=13.000

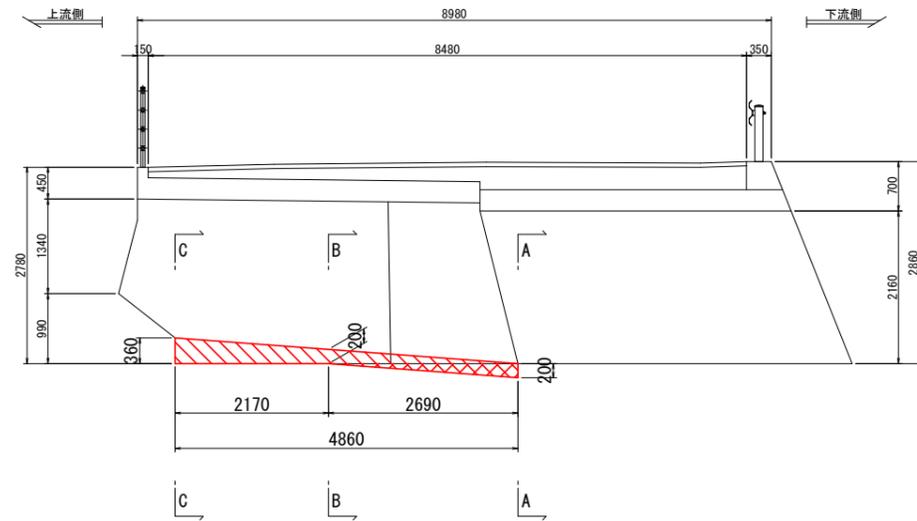
平面図 S=1:50



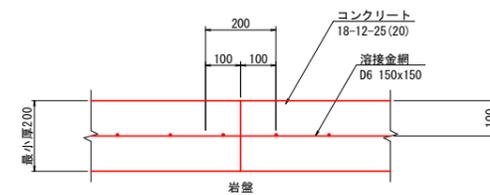
A1橋台正面図 S=1:50



A2橋台正面図 S=1:50



敷コンクリート工構造図 S=1:10



注記

1. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
2. 河床部のコンクリート厚は $t_{min}=200mm$ に設定しているため、必要厚を確保するために、施工前に整正を行うこと。
3. 岩盤の表面に付着している苔等は清掃し除去すること。また、表面の劣化が著しい箇所や浮きが見られる脆弱部は取り除くこと。

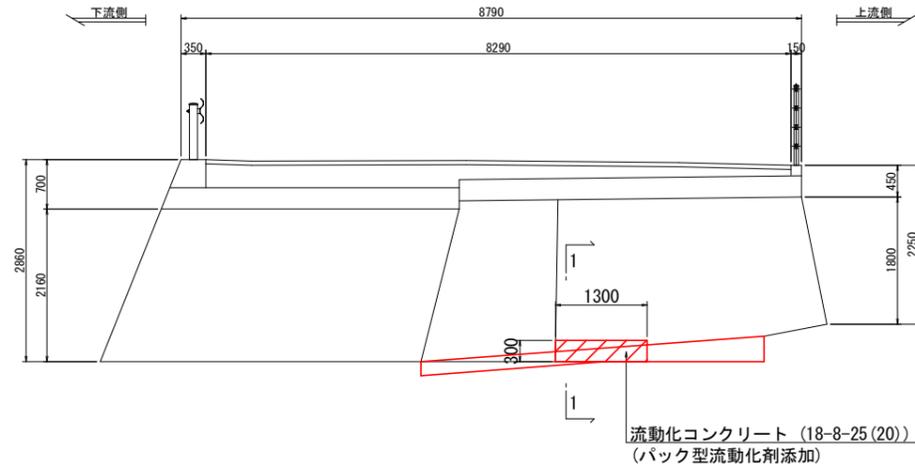
実施設計図面 【北飯谷橋】

工事名	R7徳島 徳島上那賀線(鳴瀬橋・北飯谷橋) 徳島上那賀線 徳島市飯谷町(鳴瀬橋・北飯谷橋) 橋梁修繕工事		
路線名等	徳島上那賀線		
工事箇所	徳島市飯谷町(鳴瀬橋・北飯谷橋)		
図面名	北飯谷橋 洗掘対策工詳細図(1/2)		
縮尺	図示	図面番号	11 / 12
年度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		

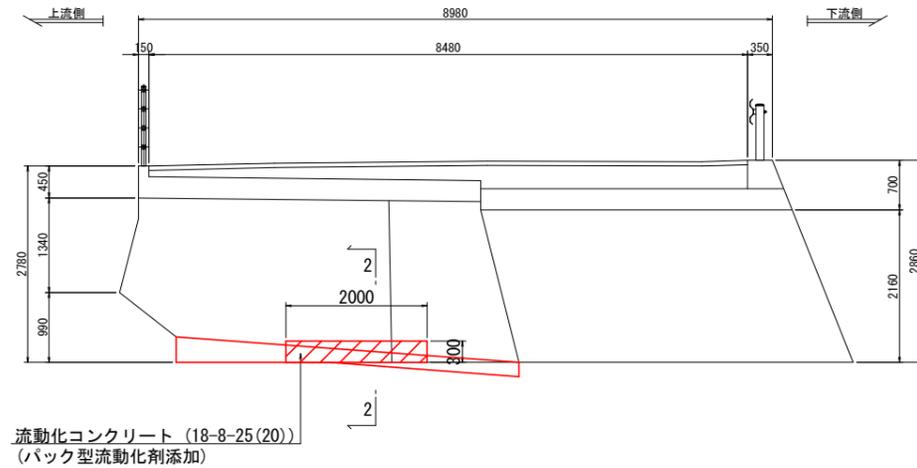
北飯谷橋 洗掘対策工詳細図(2/2)

コンクリート間詰工詳細図

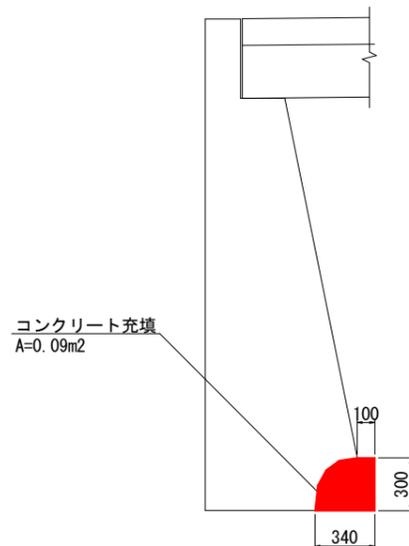
A1橋台正面図 S=1:50



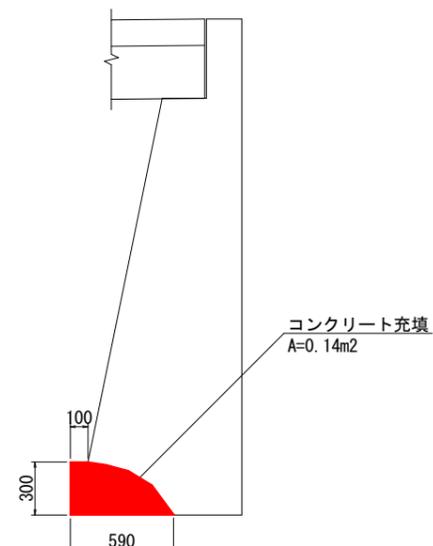
A2橋台正面図 S=1:50



断面図(1-1) S=1:20

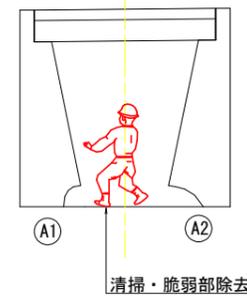


断面図(2-2) S=1:20

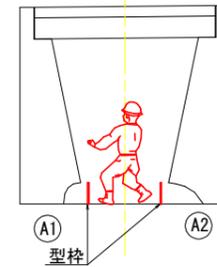


施工要領図(参考図) S=1:50

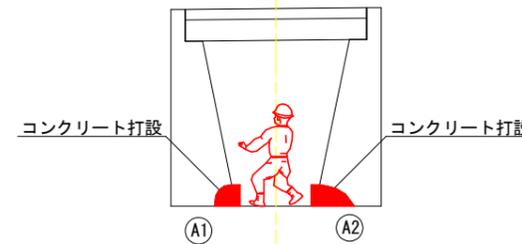
STEP. 1: 河床の岩盤表面清掃
岩盤表面に付着している苔等の除去。
浮き等の脆弱部の除去。



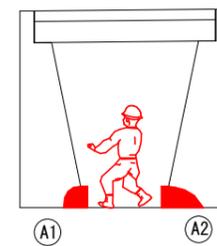
STEP. 2: 型枠設置
橋台前面に型枠を設置。



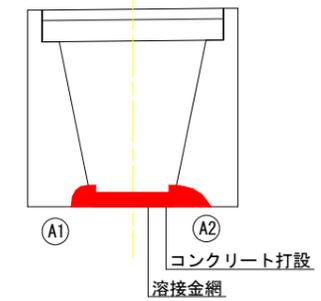
STEP. 3: コンクリート打設・養生
型枠上部からコンクリート打設



STEP. 4: 型枠脱型
養生後, 脱型する。



STEP. 5: 河床部施工
溶接金網を設置。
コンクリート打設。



注記

1. 施工前に現地計測を行い、施工範囲及び施工数量について協議を行うこと。
2. 河床部のコンクリート厚は $t_{min}=200\text{mm}$ に設定しているため、必要厚を確保するために、施工前に整正を行うこと。
3. 岩盤の表面に付着している苔等は清掃し除去すること。
また、表面の劣化が著しい箇所や浮きが見られる脆弱部は取り除くこと。

実施設計図面 【北飯谷橋】

工事名	R7 徳土 徳島上那賀線 (鳴瀬橋・北飯谷橋) 徳・飯谷 橋梁修繕工事		
路線名等	徳島上那賀線		
工事箇所	徳島市飯谷町 (鳴瀬橋・北飯谷橋)		
図面名	北飯谷橋 洗掘対策工詳細図(2/2)		
縮尺	図示	図面番号	12 / 12
年度	令和7年度		
事業者名	徳島県東部県土整備局<徳島>		